



はれるんマガジン

～気象・地震に関わる素朴な疑問に答えます～

発行：福岡管区気象台 2026年6月号（第67号）

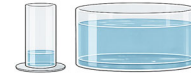
今月のテーマ

雨の単位と測り方

雨の量の測り方

突然ですが、少し想像してみてください。

雨の日に、屋外で同じ時間、太さの異なる2つの容器を並べて雨をためるとします。さて、どちらの水の高さが高くなると思いますか？



A：太い方が高くなる



B：細い方が高くなる



C：どちらも同じ高さになる

このイラストの一部は生成AIによって修正・加工されたものです。

正解は・・・ Cの「どちらも同じ高さになる」です。

雨がまんべんなく降っていれば、容器の太さや大きさに関係なく、たまる水の高さは同じになります。このように雨の量を「高さ」で表すことで、容器の大きさ、つまり観測する範囲が異なっても、違う場所の雨の量を同じ基準で比べることができます。

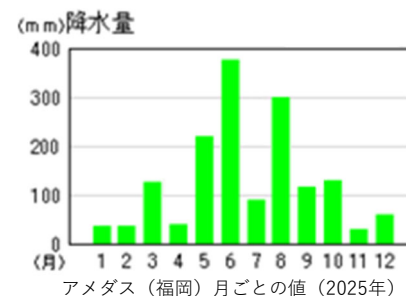
雨の量の単位

雨の量は「雨量」といい、「降った雨が流れたり、地面にしみ込んだりしないで、そのままたまったとしたら、どれくらいの高さになるか」を表したものです。ちなみに、雪などの固形の状態の水の量も含める場合は「降水量」といいます。

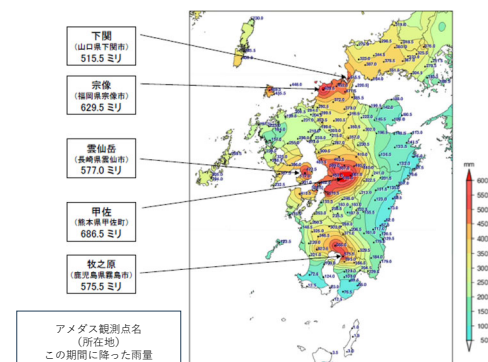
容器に雨をて水の高さを測るときの単位は、「m（メートル）」では大きすぎるので、「mm（ミリメートル）」がちょうどいいようです。実際に雨量は「mm」で表し、気象情報では「ミリ」を使います。ここで注意すべきは、体積の単位である「mL（ミリリットル）」ではなく、長さの単位である「mm（ミリメートル）」を使うことです。

雨量は、目的に応じて、地域や時期ごとに比べることができます（右図）。

【同じ地点の雨量を時期ごとに比べた例】



【同じ期間の雨量を地域ごとに比べた例】



アメダス総降水量の分布図（2025年8月7日～8月12日）

雨の強さと降り方

雨の強さは、「1時間あたりの雨量」で表します。

1時間に1mmでも外出には傘が必要になります。また、3mm降ると道路に水たまりができるようになります。もっと降ると、次のように感じます。

1時間雨量	予報用語	人の受けるイメージ
10mm以上	やや強い雨	ザーザーと降る
20mm以上	強い雨	どしゃ降り
30mm以上	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る
50mm以上	非常に激しい雨	滝のように降る
80mm以上	猛烈な雨	圧迫感や恐怖を感じるほど

実際の観測方法（雨量計）

最初の問題のように容器で雨をためる方法はわかりやすいのですが、一定の時間ごとに高さを測る必要があったり、容器から水があふれたりするので、人が測り続けるのは大変です。そのため、気象庁では「転倒ます型雨量計」という装置を使っています。

この雨量計は、0.5mm相当の雨がたまるごとにシーソー状の「ます」が交互に転倒する仕組みです。その回数から雨量を自動で連続的に観測することができます。



転倒ます型雨量計
右の写真はこの中身



「ます」にたまった雨の重みで、傾くと同時に排水し、今度は反対側の「ます」に雨がたまる



実際の観測方法（気象レーダー）

実は、雨を観測しているのは雨量計だけではありません。気象庁では全国20か所に気象レーダーを設置して、雨や雪などの分布や強さなど降水の状況を観測しています。



脊振山気象レーダー



アンテナが
回転することで
全方位を観測する

気象レーダー

アンテナから電波を放射する

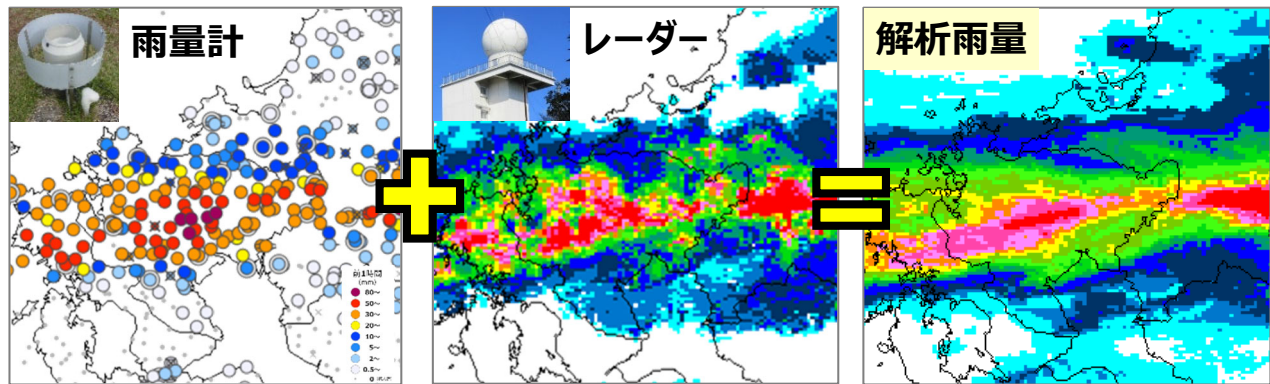
アンテナへ戻ってくる電波で降水を観測し、
放射との時間差から距離を測定する



解析雨量とは

日本全国には、多くの雨量計がありますが、それだけではすべての場所の雨量を細かく知ることはできません。そこで、全国の雨量計と気象レーダーによる観測データを組み合わせ、1時間にどれくらいの雨がどこで降ったかを1km四方の細かさで解析したものが「解析雨量」です。

解析雨量を地図上に表示することで、実際に雨量計がない場所でも、どれくらいの雨が降っているかを推定できます。局地的な大雨や線状降水帯の発生状況も把握できることから、キキクル（危険度分布）などの防災気象情報の基礎となる非常に重要な情報です。



「キキクル」については2026年5月号をチェック！

雨の状況を確認できるページをみましょう！



アメダス1時間降水量



解析雨量(今後の雨)



キキクル(危険度分布)



もうすぐ九州北部でも雨が増え始める時期です。大雨や台風に備えて、前月号までの「令和8年5月下旬から防災気象情報が大きく変わります！」のPart01～04 (https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/chosa/harerun_news.html) を今一度ご確認ください。

ご意見・ご感想をお待ちしています

問合せ先

〒810-0052 福岡市中央区大濠1-2-36

福岡管区気象台地域防災推進課はれるんマガジン編集部

電話：092-725-3614

e-mail：fukuoka_bousaichousa@met.kishou.go.jp

令和8年より

いつ逃げる？

レベルで
判断！

気象の警報などが大きく変わります

次回の発行は2026年7月の予定です。お楽しみに！